

オレは見ていた。

四山 鉱 一 労働者



今年の六月中旬から通気も除去、メタンガス、炭酸ガス、一酸化炭素などの無気味な塵埃は、オレ達炭鉱ガス、ガス、ガス……。会社は「安全」を標榜するが、実際には「人間の生命」なんて、オレ達より格の下がるゴキブリより早く取り扱ったから、もう最低だ。

「保安」を指導する職制が、そのエリメンな手抜きを公然とやっつて、簡単に死んでいく。もう最低のシヨウだ。

だが、オレはつづく根底から恐くなった。「……本当にフンドシを締めて直して、ナワ張りを守る」

オレは今日の出来事で、厳然とそう決心した。

死んでも魂はたにかいに

全日本労働組合連合会(全労連)の和松次郎さん(74)が肺ガンでなくなったのは七月末。死をまきわに和松さんは紙に記したためた遺書は「矢野政義はよいまきひくなる。こんなとき死んでいくのは残念だ。だが、わしは死んでも魂はたにかいに参加する。闘争資金に二万円カンパしたい」。仲間たちはこの話に心から感動し、たまたかの決意をあらたにしている。(全日本労働組合連合会)【KNA】福岡

例年行なわれてきた「三池・水俣交流美術展」が、去月十八・十九の両日、こんどは水俣市で開催された。

場所は同市の公会堂。この美術展もいよいよ五回目を迎え、出展者こそ多くはないがますます発展してゆく足跡を見ている。

この美術展は単に作品を展示するだけでなく、

「もっと広く呼びかけて」の声も

「この絵も」はぐるまから

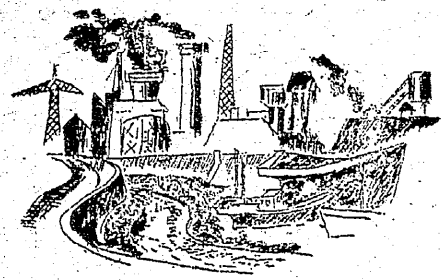
川を返せ

三川指導部 S T 生

私の幼き日
清く澄んだ岩の中に
どこの草かげに
トンボとりたわむれた過ぎし日々
水のぬるみたる日

ひきつこまですばんをまくり
めだかをすくいし川
それは大平田川だ
トンボとりたわむれた過ぎし日々
その川は今茶褐色に泡立ち
ムツとするにおいを立てこめな

「この川は私の幼き日の
想いの川
子どもたちのために
昔の川にして返してほし
トンボとりた
めだかをすくいし
終日その流れに遊びたわむれた
昔の姿の大平田川を
三川指導部九分會新聞「はぐ
るま」第三十一号から。



青婦部がフナ釣り大会

「ベトナム侵略反対」などのノボリ立て

去月十八日(日曜日)の青婦部主催フナ釣り大会は、大いに盛り上がった。

当日は朝五時からの出発で、若く労働者にはさすがにつらかったが、バイクにうちまたがり、一人ひとり、いまさわがれてくる公害の問題やベトナム侵略反対などのノボリを立て、目的地の八丁平田の釣り場へ向ううちすっかり爽快な気分になっていた。

釣り大会を行なうことと並行して、問題となっているものを訴えることを忘れないために、三池の面目が躍如としている。

とにかくその目のかんじんの成績の方はどうかといえは——

最多釣賞(四五匹) 大島さん(四山)、最大物賞(三百グラム) 山崎さん(三川)、最高重賞(一キロ七百二十グラム) 古賀さん(三川)

その他、なぞの他の賞というものは「ゼロ匹賞」なるものもあつたというから、念のため。

三池から四人が参加

「もっと広く呼びかけて」の声も

「船」が姉川良男さん(港務所指導部)、「被毒A」「同B」「同C」が武松輝男さん(本所指導部)、「坑底の怒りA」「同B」「同C」が境孜さん(宮浦指導部)。書道の部では中村清風さん(本所指導部)一人参加、その作品は「豪邁不群」「暗月照禅心」「激怒」「心湖」「月清」「寿」だった。

水俣からの参加はすべて前衛書道で、「竜虎」「風」「雲」が荒塚政人さん、「殿」「風」が窪田茂さん、「怨報徳以」が山下善寛さん、「心棒」「蟻」「ふるさ」と「柱時計」「れんげ草」が淵上清園さんだった。

それにとどまらず新日空労組の大坂などから坂本彦市さん「音」「若」「前田山さん」「空虚」「放」「無想知心」(いずれも書道の参加があったほか、水俣の一般の市民の間から六名にものぼる「書」と「絵」の共賛出品があ

新年文芸募集

組合員・家族、それに全国のCOOを守る会員の皆さん、本紙へ新年文芸をご投稿下さい。みんなの創作で、素晴らしい、みいげの新年を飾りましょう。

締切り 来る二十一日

賞 寄せられた全作
者、心ばかり
短歌 一人三首まで。選

の記念品を準備
しています。

種目と要領は次の通り。

小説・コント 四千文字内外まで。

詩 一人三首まで。選は三池文芸の詩人・内田博さん。

その他 写真やマンガなど、それぞれ主題は、新しい年をめざして闘うすむ労働者にふさわしいものを、がんばりましょう。

みいげ編集部



獲物の目方をはかる目が厳しい

獲物の目方をはかる目が厳しい